



世界に希望を生み出そう

2023～24 年度国際ローター・テーマ
RI 会長:ゴードンR.マッキナリー (スコットランド)



フリージア[あどけなき、純潔、親愛の情]

2024年 02月 05日 [3RC (鹿屋・鹿屋西・かのや東) 合同例会]

◆ゲスト紹介

- 黒木 次男 様 (鹿屋市防犯協会 会長)
- 永田 良文 様 (永田良吉氏 ご親戚)
- 本坊 祐子 様 (Web デザイナー)
- 本田 仁 様 (市議会議員)

◆会務報告

- 2024-25 年度版 ローター手帳お買い上げのお願い [1部 660円 税込み]
- 第25回エアーメモリアル in かのや 事業負担金について
- 阿久根ロータリークラブ創立50周年記念講演
・記念式典・祝賀会のご案内
日時: 2024年4月14日(日)13:00~
会場: ホテルABCパレス
登録料: 10,000円
- ロータリー日本100年史正誤表送付の件
- 3/9 会長エレクト研修セミナー宿泊の件
- ハイライトよねやま Vol.287
- 「春のつどい」について (ご案内)
日時: 令和6年3月29日(金)18:00~
場所: 鹿屋航空基地 体育館
会費: 3,000円
- 延岡RC創立70周年記念式典・祝賀会のご案内
日時: 令和6年4月27日(土)14:00~
会場: エンシティホテル延岡
登録料: 10,000円
- クラブ活動・地区委員会報告の件
- 週報 …… 鹿屋RC・志布志みなとRC

会長の時間

かのや東 RC 会長 岩越隆史さん


みなさん、こんばんわ。
 本日は3RC合同例会にご出席いただき、有難うございます。今回、この合同例会開催にあたり、前田会長とは会長エレクト時代に、コロナも収束するから来年は合同例会ができるといいですねと話をしており、寺村会長は、お会いするたびに、永田良吉さんの話をされていて、どこかでこの話をまずは私たちが功績を知り、子ども達に伝えていくべきだとおっしゃっていましたので、本日、この機会ができましたこと、大変うれしく思います。
 今回の例会で、大隅半島の発展に尽力された永田良吉氏の功績について学び、私たちロータリアンが子どもたちや地域の方々など、後世に語り継いでいく一助となればと考えています。
 本日は懇親会も準備されております。11年ぶりに合同例会が開催されますので、違うクラブの会員の方とも交流を深めていただければ幸いです。
 最後になりますが、合同例会開催にあたり実行委員会の鹿屋RC 福重さん、鹿屋西RC 上谷田さん、かのや東RC 宮田さんには、段取り、調整等をしていただきました。本当にありがとうございました。本日の例会、懇親会、最後までどうぞよろしく願い致します。



次回プログラム	
2月26日(月)	
卓話者: 王谷英仁さん	
担当委員会: 奉仕プロジェクト委員会	
3分間スピーチ: 東郷健一さん	
出席報告	会員数 (41)44名
	出席数 34名
	出席率 82.93%

メイクアップ情報			
鹿屋	02月21日	(水)	ホテルこばやし
かのや東	02月22日	(木)	かのやクラブホテル
串良	02月19日	(月)	セントロ大隅
志布志	02月20日	(火)	大黒本店 時間変更19:00~
きもつき	02月20日	(火)	高山温泉ドーム
南九州大崎	02月22日	(木)	セントロランド
志布志みなと	02月21日	(水)	大黒本店

鹿屋西ロータリークラブ	
会長:	前田 数郎
副会長:	遠矢 達一
幹事:	梅北 健一
例会日:	月曜日 12:30~13:30
例会場:	ホテルさつき苑 TEL:40-1212
事務局:	〒893-0064 鹿屋市西原1丁目9-10 ホテルさつき苑内 TEL:44-5811 FAX:41-1959
E-mail:	kanoya24@po5.synapse.ne.jp



3RC(鹿屋・鹿屋西・かのや東)合同例会



点鐘:前田会長(鹿屋西)



講演者紹介:寺村会長(鹿屋)



ゲスト:黒木様、永田様、本田様、本坊様 (左から)

合同懇親会にて



乾杯(風呂井PG)



閉会挨拶(田中PG)

クラブ対抗ゲーム



鹿屋ロータリークラブ 代表10名



かのや東ロータリークラブ 代表10名



鹿屋西ロータリークラブ代表 10名

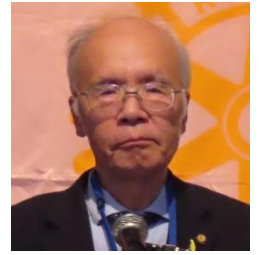


手に手つないで

講話

黒木 次男 様

永田良吉の政治信念



一概に私の口から、永田良吉は「尊敬する人でした、立派な人でした」というような程度の言葉で表現できるような人ではないと思っています。

永田良吉さんは、私の経験の中で、哲学者であって日本人の魂をもった民俗学者だと思っています。人に影響を与えることができる教育者であり、政治については、粘り強くどんなことでもやりとげる本物の政治家だと思っています。私は17歳の時に初めて出会ったのですが、今まで見たことがない侍だなあとおぼろげな方でした。こうした偉大な人を私が語るというのはおこがましいのですが鹿屋の地に、大隅の地に、日本にこのような偉大な政治家がいたということを憶えてほしいと思っています。色々な書物の中にもでてきますが、5000件の請願を省庁に届けたり役所に届けたりしており、国には2000件の要望を届けています。このようなことを命がけで行っている政治家は今まで見たことがありません。

なぜ、私が永田良吉氏について話すかという、私は今、こうやって皆さんの前に立って話ができます。しかしながら、子どもの時は人前に出ること、話すことが得意ではありませんでしたが、高校生の時に政治に興味をもち、政治家で有名な人である永田良吉氏の存在を知りました。17歳の私は、永野田の永田さんの家に行きました。初めて訪ねたときは、緊張をして話をすることはできませんでした。これじゃいけないと思い、勇気をふり絞り2回目の訪問をしました。ノートを持ち、鉛筆をもち、政治を教えてくださいとお願いしました。

まず、第一声で言われたことは、「政治を志すのであれば、若い人に必ず言っていることがあり、まず大事なことは政治にとっては愛が必要」、二番目に言われたことは、「あらゆる情報を吸収するために、地球の裏側まで観察をしたり考えたりするような感覚を持ちなさい」、「そして、気がついて人のためにこれをしないといけないと感じたら、自分で動きなさい」という話をして下さいました。

私が帰る前に、福岡通産局に東大を出た橋口隆という人物がいるから、この人を国会議員にするから一緒に政治を勉強して市長になりなさいという言葉をかけてもらいました。

私は人と話すことは上手ではなかったけれども、急に自分は市長にならないといけないんだろうか、と



いう感覚を持ったことを憶えています。

「やり残したことといえば、大隅を一大食糧基地にして、ここに運河をひいて鹿屋の中心まで柏原から大きな船が入ってきて食糧を運んだりするような構想をもっていたけれども、もうそれを実現することができなくなった」という話をしてくれました。私は、やがて政治家へ…という気持ちを持って上京はしましたが、環境に馴染めず大学を卒業することなく帰ってきてしまいました。帰ってきた時、地元で橋口隆氏の演説会があったので、行ってみました。ご本人に、「17才のときに永田良吉さんのところに行ったら、先生ところで勉強しなさいと言われた」ということを話しました。橋口先生についていたのが永田良吉伝を書いている秘書であった大場昇さんです。それから橋口先生のところで手伝いをしながら政治の勉強をしようと思いましたが、やっぱり私が人の前で話ができるようになったり、いろんなことに自信をもって生きていけるようになったきっかけは永田良吉氏なのです。

永田良吉氏をもっと知ろうということで、橋口隆派の議員の方々に縁を持った人を紹介してもらいました。永田良吉さんから政治はまず愛でなければならぬということを感じました。敬愛園を西侯に作ろうということで動かされたとき、ハンセン病患者の方はいろんなことでつらい思いをし、差別を受けたりしているのを肌で感じていらして、自分の家に連れていき励ましていたりしていたそうです。今の衆議院の厚労委員会で非常に病気で苦しんでいるハンセン病患者がいて、多くいるのが鹿児島県と沖縄県であること、こういった人々を放っておくわけにはいかないから大隅に受け入れて彼らが生きがいを感ぜられるような施設を作るんだ、そのかわり、このような施設を作るといろんな反対が出てくるけれども私が責任をもって解決をする、だから大隅に作らせてくれと国に了解を得、地域の皆さんに、こういった困難な方々を受け入れるような大隅の素晴らしい人が住んでいる地域であれば、地域も盛り上がるし、この地域の発展につながると理解を求めたそうです。

医療関係の仕事も増えるし、経済効果も高くなるだろうと説得し、国立療養所ができたそうです。

平成18年、山下栄市長が私に、宮城県登米市の視察に誘ってくれました。敬愛園と同じような施設があり、後々の施設活用法について勉強をしてこようというものでした。

私に話していただいた地球の裏まで、世界全体に目を向け、すべての方向に目を向けて何が問題なのか、

何を解決すべきなのかを考えて提示をしていかないといけないということは、とても大事なことで感じます。

大正6年、今の南日本新聞が鳥人飛行家スミスというパイロットを連れてきてアクロバット飛行を見せてくれました。日本はもう少し飛行機などに力をいれていかないと世界の情報も入ってこないし、世界中を移動できない。だから、日本のためには飛行機を持ってくる必要があるということを考え、大正11年、大隅の人たちにも飛行機の大切さを教えなければと、自分のお金と寄付を募り飛行士を招き、民間飛行大会なるものを開催し、大隅にも飛行機を持ってこないといけないという意識をたかめ、大正11年8月には笠之原飛行場ができたいきさつがあります。国でもなんでも動かして、命がけでやっていくという姿勢を見せてくれたエピソードです。私は、17歳の夏、3分間で世界の地図が描けるようになりました。永田良吉さんが「世界を全部知りなさい。そのうえで、色々な情報を集めて政治を目指しなさい」と言われたからです。そして、国会でも日本各地で飛行機の大切さを説いていらっやいます。大隅の飛行機代議士と呼ばれる所以です。様々なところに目を向けてらしたんだなあと思うのは、笠之原台地6000町歩に水道をひいた話です。まず高隈の小野勇市さん(18歳)という人が竹で水道をひき、それをみて中原菊次郎という郡会議員がそれを活かして全体に水をひいて耕地整備をしようと思っていたら、同じ頃に県議をしていた永田氏がそれなら耕地整備組合を作れということで、事業が始まったそうです。その作業を始めるころは、永田さんは国会議員になっており、中原さんたちは永田さんに相談し、協力を頼んだそうです。驚くのは、笠之原水道をひくのは、永田さんが日露戦争で日本が勝った戦利品であるバルチック艦隊からもらった鉄の管を8400m繋いで水道の本管工事をされたそうです。

こういった偉大な事業ができたおかげで、満州や東南アジアなどから帰ってくる人も多く、1クラス55人のベビーブームの頃、日本は国の政策として国民が1億人を超えるだろうから、食料を確保する政策を考えないといけない。注目されたのは北海道、東北、そして鹿児島県でした。鹿児島県に目が向いたとき、素晴らしい国会議員がおります。以前から永田氏の中には、笠之原台地をやがて食糧基地に…という思いはあったので、高隅ダムを作って笠之原台地に畑かん事業をしないかという話が持ち上がって、国営事業として国が事業をはじめることになりました。

高隅の柏木地区の住民から大反対がおこりました。国の事業なのに、せっかく大隅半島に国営第1号の事業になるのに…と、鹿屋市長であった永田さんは高隅まで寺園知事を連れて住民の説得に出向いています。「この事業に理解を示して、協力していただければ日本の1億人の命を救えるという事業に参加できるのです。協力をしてください」と熱く語ったそうですが、罵声をあびたりしたようです。寺園知事は、国の職員を連れ、私は市民の代表として皆さんの気持ちはわかる。国と相談して皆さんの困難・不安を解決していくと粘り強く説得しながら取り組み、住民の協力をとりつけることができました。また、笠之原台地でも同じです。住民が反対する理由や、どういう条件なら協力してもらえるかを考えてもらい、スプリンクラー活用という案をもって事業を調整し理解を得て第1号の国営畑かん事業が実施されることになりました。住民のために、市長として泥をかぶりながら粘り強く国や県と交渉をすすめて実を結んだ形です。

永田さんの議会での話をしますが、岸田首相が先日、国会で47分の所信表明演説をされましたが、まったく理解できない気がしました。永田さんの話は、何をするかということを経済でも市の職員、そして市民にもわかるようにしっかり伝えていらっしやいました。「私が鹿屋市長としてやることは、自衛隊の工作所が少ないけれど1万人にして雇用を増やす。防衛大臣と話を調整するので、協力して下さい。そして、食糧のブランド化、民生の事業、教育の事業、国鉄バスの事業、鹿屋から国会議員がでていないから私が鹿屋から輩出させる」として橋口隆氏を国会議員にしまいました。いま、そのようなことをいう首長はいないと思います。今、考えるとまず、世界が目撃したり日本が目撃したりしたのは、戦後、米軍が古江から上陸し、占領地を沖縄、大島、南九州からという話があがったとき、米軍に対して、「ここは特攻基地だ、特攻に応じる神風ボーイズがまだ高隅山に1000人ぐらいいるから、あなた方がここに駐留するようなことがあったら、どんなことをするかわかりませんよ」と堂々とわたりあったそうです。一方では、米兵とも話をしながら、日本刀が欲しいという人には、日本の魂が宿っている美術品だから大切にしないと準備してあげたこともあるようです。このような行動を、吉田茂氏、岸信介氏も知っていて永田さんのことを生涯かけて命がけて政治をした男だ、公明正大な素晴らしい政治家だったと認めています。色々な人たちが、政治家が、永田さんの考え方を引

き継いでくれたらいいと思っています。私も考え方は引き継いでおりますが、肝心の日本人の魂、サムライ的な根性、どんなことでもやりとげる気持ちを引き継いでいる人はいるのだろうか、と橋口先生のそばにしながら思うことでした。橋口先生は、笠之原台地を日本の食糧基地に…という魂を引き継いでくれました。シラス対策事業という法案を立ち上げ政策をつくり、今でも役に立っています。それは、ほとんど国のお金で展開できています。橋口先生が永田さんの魂を引き継いでくれたおかげです。

最後に、永田良吉さんがここにいたら、どんなことをしているだろうか？という話をしたいと思います。去年、県経済連が志布志湾から300万トンの飼料が入ってきますが、経済連に働きかけ、経済連が国に働きかけ、笠之原台地にペレット化した飼料をつくる工場を作る計画を野村農水大臣の下にたてたのですが、鹿屋市が説明したら中身をよく確認せずにして取り下げでした。

永田良吉さんなら、大隅半島に世界に必要な素晴らしい施設ができる、日本のために日本のために…2度も3度も向き合って説得できるでしょう。しっかりと経済連の事業をひきついで地域が活性化し、素晴らしい日本に誇れる施設ができるのではないかなと思います。

今、私が永田良吉さんだったら、大隅半島、日本の地方都市に必要なことは、能登半島での地震もありましたが、国道強靱化事業としてR6年度から1500億円、地方の声を反映して令和7年度から2兆5000億が必要、大隅半島から宮崎や高知県、和歌山県など南海トラフに向けてそれぞれの県で1000億円ぐらいのお金が必要だと言われています。国民の命を守るのに、そのお金を持ってこないといけないうって動いていると思います。その魂が引き継げる政治家をつくってほしいと思います。それによって日本もかわり、世界もかわります。私はこういう方に生きているうちに会えてよかったなあ、みんなの前で話ができるような一人前の人間になってよかったなあと思っています。

みなさんの心の中に、どんなことでもやりとげる「魂の政治家 永田良吉」を留めておいてほしいですし、次の世代にも伝えていただきたいと思います。

